

事業計画

	事業名	「まつどの介護」プロモーション事業
	団体名	特定非営利活動法人 SmileResource
	事業担当課	介護保険課
事業概要		
<p>松戸市の介護（介護制度）を動画化しプロモーションすることで“介護の見える化”を図り「分かりやすくして利用しやすい松戸市の介護」の促進を目指す事業を実施する。</p>		
松戸市の課題	<p>超高齢化社会となった我が国では、毎年7万人近くも介護離職者が発生しています。これから迎える2025年問題。更に高齢者人口が増加し、雇用や医療、福祉などに様々な影響が出る事が予想されています。介護問題と介護離職問題もその重要な課題です。</p> <p>課題①「市民への周知度向上」</p> <p>松戸市の介護支援体制は多くの資源を準備しており手厚い体制だと思います。市民の「松戸の介護体制」に対する認知度も上がってきていますが、今後も更に高める必要があります。</p> <p>そのために「いつでもどこでも、手軽に松戸市の介護サービス情報を“見る、知る、聞く”ことができる」資源（動画）は効果的です。</p> <p>課題② 高齢化社会を支えるために「若者の力を活用したい」</p> <p>地域における高齢者支援は高齢者（地域活動）が支えている印象がありますが、介護に携わる若いマンパワーも多く存在しています。その若いマンパワーを活かす取組みが必要です。</p>	
事業の目的	<p>この事業は次のことを目的として進めていきます。</p> <p>課題①の解決策として、松戸市の介護制度を動画化し、「誰もが、いつでもどこからでも（自宅、仕事場、市外、病院のベッドの上等）手軽に楽しみながら「松戸の介護」の情報を得られる」ようにすることです。</p> <p>課題②の解決策として、令和4年度からは千葉県立松戸向陽高等学校さんらの協力を得て、在学中の福祉教養科の学生さんがボランティアとして参加中です。学生さんと活動することで「若者が参画した介護」の情報を発信し、老若男女問わず松戸の介護に関心を寄せていただき、高齢者福祉の課題を松戸市全体で支えていく体制をより強固なものにしていくことです。</p>	
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>市内に幅広く整備されている介護支援体制（行政、事業、市民活動等）を動画化し、下記のYouTubeチャンネルにアップロードすることで「松戸の介護の見える化」を行う。</p> <p>○YouTubeチャンネルへの動画投稿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投稿先：介護保険課まつどDE介護ちゃんねる <p>○介護支援体制及び介護事業所（サービス内容等）の動画制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に取材・撮影する種別サービス等 介護施設、通所事業所、訪問系事業所、福祉用具事業所、介護人材等 その他、介護に関する取組み（行政や地域における活動等） 	

- ・撮影スタッフの構成（1ロケあたり）
団体スタッフ1名～2名 ボランティア（学生さん等）2名～3名
- ・動画編集
団体スタッフ1名 ボランティア1名～2名（学生さん等）
- ・動画制作に要する機材
スマートフォン、カメラ、動画編集ソフト、照明、インターネット接続機器等、
その他機材（マイク、三脚等）
- 事業周知のための活動
チラシ作成と配布（対象：市内の一般企業の人事宛へ配布）
当法人SNS（Instagram等）による事業紹介
- ボランティア募集
松戸向陽高等学校の学生さんらへのボランティア募集説明会開催
当法人HP及びSNSによる学生ボランティアの募集
- 上映会の開催
上映会開催場所としては下記を予定
 - ・市内中学校 中学生 参加者見込み50名以上
 - *GYD（ゲッドユアドリームという活動に参加して上映）
 - ・担当課主催の一般向けの介護に関する研修会にて上映
場所は市民会館や市民劇場など指定場所 参加者見込み：100名以上

2 スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月	各関係機関へ協力お願い、ボランティア説明会開催	スタッフ及び担当課 場所は各拠点で実施。
5-8月	動画制作 目標4本～	スタッフ及びボランティア 場所は各拠点で実施
9月	企画振り返り 上映会の企画、開催	スタッフ、ボランティア及び担当課 上映会開催について ・他法人活動のGYDへ参加/市内中学校/中学生 ・担当課主催の介護関係の研修会にて上映/一般/指定の場所
10月	各関係機関へ協力お願い、ボランティア説明会開催	スタッフ及び担当課 場所は各拠点で実施
11-2月	動画制作 目標4本～	スタッフ及びボランティア 場所は各拠点で実施
3月	企画振り返り、予備月	スタッフ、ボランティア及び担当課

3 新型コロナウイルス感染症対策としての取組

- ・撮影前の体調管理 撮影時のマスク、消毒の徹底
- ・感染者増加時期の撮影の自粛（施設系、通所系、訪問系等）

事業の目標	<p>① 年間動画制作数（目標） 年間 8～10 本 種別ごとの介護制度を 5 分程度のショート PV として制作 令和 5 年度においては上記内容の動画だけではなく、介護人材に関する紹介動画や地域による介護に関する活動を紹介する動画等も企画していきたい。</p> <p>② この事業を様々な方法で周知することで、動画再生回数をそれぞれの動画ごとに 500 回再生を目標としたい。</p> <p>③ 介護を学ぶ学生さんらのボランティア参加 年間 5～10 名のボランティアさんに参加してもらう</p> <p>④ 事業の普及啓発 松戸市広報への掲載 1 回/上映会 1 回~/事業チラシ配布 等</p>
協働の必要性 (団体)	<p>このプロジェクトを成功させ松戸市の新しい資源とするためには行政との協働が重要です。担当課として力を入れている事業や市民の方々に知ってもらいたいことなどを私どもの活動で見える化し、松戸市を通じてクローズアップすることが必要です。そのためにも市内の介護を担う担当課（介護保険課）との協働が重要です。</p>
協働の必要性 (市)	<p>担当課（介護保険課）は、行政の堅いイメージの動画ではなく、市民目線の親しみやすい動画を制作できるメリットがあります。活動団体が橋渡し役となり、様々な事業者さんや学生さんらと柔軟に協働した動画がつけられることに必要性を高く感じています。</p>
事業実施の役割分担	<p>① 団体 総合企画 / 動画制作 / 広報活動 / ボランティア連携 * 広報活動については主に「チラシ作成、配布」「当法人 SNS 掲載」等</p> <p>② 担当課（介護保険課） 企画進行への協力、支援 / 広報活動 / 動画監修 * 広報活動については主に広報まつど介護保険特集号への掲載 及び SNS での周知、イベントでのチラシ配布や動画放映を検討</p>
今後の展望	<p>事業開始から 3 年目となります。これまでの出会いにより、多くの動画を制作でき多くの繋がりができました。</p> <p>この事業は協働事業終了後も継続していくべき活動だと考えています。</p> <p>若者と協同による介護に関する情報発信により、介護の力や介護の魅力が高まることに期待をしています。</p> <p>そして多くの方に今直面している超高齢化社会を理解いただき、年代問わずに助け合いながら年をとっても安心して暮らせる街になることを夢に描いています。</p> <p>私たちの動画が誰かの役に立てることを願って今後も制作を続けていきたいと思えます。</p>

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 311,631	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 29,840	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 29,840	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 268,560	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 298,400	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の 交付対象 経費	使用料および賃借料	¥ 70,000	動画編集ソフト（ライセンス料） 10,000円/年 撮影機材カメラ（リース代） 5,000円×12ヶ月
	消耗品費	¥ 61,400	事務用品代 郵便押印用シール等 100円×20個 クリアホルダー等 100円×20個 DM用ポリ封筒100枚A4等 3,000円×3個 アルコール消毒液 等 2,000円×5個 フェイスシールド24枚入り等 9,900円×1個 マスク（不織布）等 1,000円×3個 SDカード等記録用品 等 2,000円×3個 撮影用照明器具（スタンドライト） 9,500円×1個 スケッチボード 等 1,000円×10個
	食糧費	¥ 40,000	ボランティアのお茶代・菓子代 (1回) 2,000円×20回
	印刷製本費	¥ 6,000	動画案内のチラシ 6,000円 (6円×1000部)
	通信運搬費	¥ 86,000	動画編集用インターネット利用料 月6,000円×12ヶ月 チラシ郵便（定形外） 140円×100回
	委託料	¥ 35,000	チラシデザイン料 35,000円×1回
	対象経費の合計 (E)	¥ 298,400	
（その他 対象外） 経費	その他経費の合計額 (F)	¥ 0	
	合計額 (G) = (E + F)	¥ 298,400	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×953円
	会議・打ち合わせ (15回)	71,475 円	5 人 × 1 h × 15 回 × 953 円
	撮影企画準備	57,180 円	3 人 × 2 h × 10 回 × 953 円
	撮影	114,360 円	3 人 × 4 h × 10 回 × 953 円
	編集	57,180 円	1 人 × 6 h × 10 回 × 953 円
	ボランティア説明会	5,718 円	3 人 × 1 h × 2 回 × 953 円
	説明会準備	5,718 円	3 人 × 1 h × 2 回 × 953 円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
	合 計 (A)	311,631 円	